スポーツ創志科

定員／120名

体育教員やインストラクターを目指したい

得意スポーツの技能を伸ばしたい

将来、スポーツ分野に関わりたい

POINT

1. 仙台大学の附属高校化で 高大連携教育を強化

2. 専門学科で体育教員やスポーツ指導者を育成

3. スポーツ科学を学び スポーツを支える人材を育成

主な進路

進学	仙台大学、山形大学、宮城大学、東北学院大学、東北福祉大学、青山学院大学、明治大学、立教大学、中央大学、日本体育大学、国士舘大学、玉川大学、法政大学、帝京大学、城西大学、東海大学、山形病院附属看護学校　など
就職	航空自衛隊(一般曹候補生)、警視庁、宮城県警、仙台市消防局、自衛官、㈱ベガルタ仙台、㈱七十七銀行、アイリスオーヤマ㈱、㈱JSS、㈱仙台三越、日本通運㈱　など

スポーツ分野に必要な専門知識や技能を高め、スポーツのある人生に貢献できるチカラを育む。

運動部に所属して各自が専門とするスポーツの技能向上を図りながら、トップアスリートを目指します。またスポーツ・健康に関係する様々な専門知識を習得し技能を身につけることで、体育教員やスポーツを支える仕事につくための基盤づくりをします。基礎基本をしっかりと身につけるカリキュラム構成で、多様な進路に対応します。

Message

失敗を恐れず挑戦できる、そんな環境が整っています

部活動が盛んで、スポーツに打ち込む環境が他校より整っていることが入学の決め手でした。本校は現在、全国大会出場を果たすなどめきめき力をつけている部が多く、明るく元気なエネルギーにあふれています。より多彩なスポーツ経験のための外部施設利用や専門の先生方による指導、ケガなどに対するケアも充実しているので、スポーツを軸にした将来設計を考えている人には最適な学校だと思います。私も姉妹校である仙台大学へ進学し、多くの競技者を陰で支えるアスレティックトレーナーを目指しています。

佐々木 凌凱さん
(3年／仙台市立柳生中学校出身)

仙台大学ATによる授業
「スポーツ傷害について」
仙台大学スポーツ健康科学研究実践機構分室にて

News

Top AthleteVoice

トップアスリートの声

Interview

プロになろうと思ったのはいつ頃ですか?

高校3年生の時に、U-18日本代表に選出され、アジア選手権に出場したことがきっかけです。プロになって世界中の国と試合をしたいと強く思いました。

プロになるために高校3年間の生活で意識をしていたことは何ですか。

とにかく毎日の練習に、がむしゃらに取り組んでいました。

プロになるために一番努力したことは何ですか。

全ての時間を捧げました。

各競技のプロになりたいと考えている後輩に一言お願いします。

プロになりたいと思う気持ちをどんなときも持ち続けて下さい。また、世界で戦うためには、必ず英語が必要なので、しっかり勉強も頑張ってください。

©adidas Japan K.K.

アルバルク東京
安藤 誓哉さん(平成22年度卒業)

在学中は全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会で全国初優勝に大きく貢献。明治大学に進学。現在所属しているアルバルク東京では、チームの中心人物として、全試合に出場し、2018年、2019年Bリーグチャンピオンシップ2連覇を達成した。

スポーツを

する

- 豊かなスポーツライフの設計 ⇒プロスポーツ選手、スポーツ愛好家
- 生涯を通してスポーツの発展に寄与する能力の育成 ⇒体育教員、スポーツ指導者、運営スタッフ、スポーツ行政指導者

みる

- スポーツ観戦、ルール戦略 ⇒プレーヤー、所属チーム運営、スタッフ、報道
- イベントの企画 関係者が提供 ⇒スポーツでみんなを元気に

支える

- プレーヤーを支える ⇒トレーナー、栄養士、コーチ、戦略分析
- ゲームを支える ⇒審判、運営スタッフ、応援、ボランティア

知る

- スポーツは人生の潤い
- スポーツは貴重な文化資源
- スポーツの可能性と問題点

MEMO

よりアクティブに 高大連携教育

仙台大学との連携メリット

目指す学科へ

体育学科、健康福祉学科、運動栄養学科
スポーツ情報マスメディア学科
現代武道学科、
子ども運動教育学科

- スムーズな進路実現へ
- 入学金免除
- 仙台大教授等による直接指導
- 大学の施設利用や部活動交流
- 大学の認定単位となる「高大接続事業授業」

明仙バスケラボ

仙台大学ATサポート

アスレティックトレーニングルーム